

プレスリリース

厳冬の荒行に女性も挑む

伝統行事「裸参り」が行われます

平笠地区、寄木地区それぞれで、無病息災を祈り、地区を練り歩きます

【発表の要旨】

裸参りは、寒中に難行苦行し、神仏の加護を得て、五穀豊穡、無病息災、家内安全などを祈願する行事で、全国各地で行われています。

当市でも、平笠地区と松尾寄木地区で地域の伝統行事である「裸参り」が行われます。特に、平笠裸参りは、全国的にも例のない女性の荒行として知られています。

- 1 開催日
- 平笠裸参り：令和8年1月8日(木)
寄木裸参り：令和8年1月16日(金)

- 2 スケジュール 下記のとおり

市指定無形民俗文化財

平笠裸参り

08:00
神事 中平笠公民館
09:00 ごろ
行列出発 宮田神社

大更八坂神社に
向かいます



寄木裸参り

10:30
神事 南寄木集落センター
10:40 ごろ
行列出発

天照皇大神宮に
向かいます



【担当】

市民部文化スポーツ課 生涯学習係
主任 田中 美穂
TEL：0195-74-2111（内線：1143）

市指定無形民俗文化財

平笠裸参り



平笠では、享保年間(1710 年代) に岩手山が噴火し、「焼走り」をつくったが、これを恐れた村人たちが山の怒りを鎮め、安穏を祈願したのが始まりと言い伝えられています。

その後、戦時中に銃後を守った主婦たちが、夫や息子の武運を祈って行ったのが、「平笠女裸参り」の始まりであり、女性の荒行として全国的にも例のない珍しいものです(参考：西根町史)。

〇市無形民俗文化財の指定 昭和 56 年 3 月 25 日(旧西根町指定)

引用：はちまんたい議会だより No.26 平成 24 年 2 月 2 日号

寄木裸参り



寄木では、享保年代(1716 ～) の数次にわたる岩手山の噴火を恐れ、これを鎮める祈願として始まったといわれます。市の指定無形民俗文化財である平笠裸参りと同時代と思われますが、創設年代などを特定できる資料は残っていません。現存する最古唯一の資料は、大正 15 (1926) 年 1 月 16 日の参詣記念写真で、「南寄木裸体参詣講中一同」として参加者 70 人の名簿が添えられ、大神宮(通称・お伊勢さん)に保存されています。戦後は途絶えていましたが昭和 57(1982)年、老人クラブや婦人会、青年会や消防団など地域の有志が中心となり、古老からの聞き取りや平笠裸参りを参考にして 43 年ぶりに再興され、現在に至っています。

引用：広報はちまんたい No.165 平成 25 年 1 月 10 日号